

小児病院の地域支援について

(分担研究：小児病院の地域保健に対する支援体制に関する研究)

研究協力者 大崎逸朗

要約：地域から小児病院に期待される支援について知るために神奈川県内の保健所と訪問看護ステーションにアンケート調査を行った。その結果、保健所が地域で保健、医療活動を行う上で小児病院の役割として、教育、研修に始まり、情報の発信の場として、各種の資料の供給源として、様々の相談の頭脳として、さらに地域での保健、医療のシステムづくりの核として大きな期待が寄せられていることが示された。また訪問看護ステーションからは小児の訪問看護を進める上で保健所から寄せられたと同様の期待と同時に、在宅医療を進めるための地域医療機関との連携や、学校教育機関への橋渡しへの関与が期待されていた。保健所が専門的機能強化を果たし地域の保健、医療、福祉の統合と推進を図るため、また在宅医療が進み慢性疾患児や長期療養児の地域でのケアを保健所や訪問看護ステーションが有機的に連携して進めるため、小児病院の地域支援はますます重要性が増すものと思われる。

見出し語：地域支援、保健所、訪問看護ステーション、在宅医療

1.研究の目的

地域保健法の改正により母子保健業務の多くは一元的に市町村に移管され、保健所はより専門的な業務を担当すべく機能強化が期待されている。今後小児の地域保健の担い手としてますます専門的機能強化が期待される保健所にとって小児病院がどのよう

な役割を果たし得るか知ることが必要である。また小児においても最近増加しつつある在宅医療は地域での支援があって初めて安全に推進される。小児の在宅医療にとって保健所と連携してその継続的支援活動の担い手として期待されるのが訪問看護ステーションである。そこで地域保健活動の拠点である保

健所と地域在宅医療活動の支援拠点である訪問看護ステーションに小児病院に期待される役割についてアンケート調査した。

2.調査方法

神奈川県内の保健所と訪問看護ステーションに郵送によるアンケート調査を行った。保健所については県域 12、横浜市 18、川崎市 7、横須賀市 3保健所にアンケート用紙を送付し、それぞれ県域12,横浜6,川崎6,横須賀1計25保健所より回答を得た。また訪問看護ステーションについては平成8年11月現在確認できた県内52訪問看護ステーションに看護ステーション向けアンケート用紙を送り、36施設から回答を得た。これらの結果から小児病院の地域保健

に対する支援について検討した。

なおアンケートに際し小児病院を特定の施設に限定しないで質問を設定していたが、位置づけに明確さを欠いたため、小児病院としてこども医療センターを想定したと思われる回答も一部に見られた。

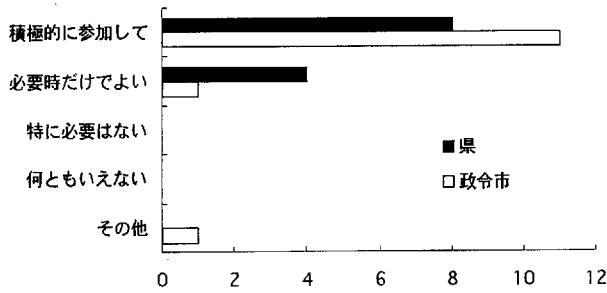
3.結果

1)保健所へのアンケートから

a.小児病院の地域保健、医療、福祉業務遂行への参加について（図1）

積極的に参加して欲しいとするものが多かったが、必要な時だけでよいとするものが20%あった。この傾向は県域保健所にその傾向が強かった。

図 1 小児病院は地域の保健医療福祉に

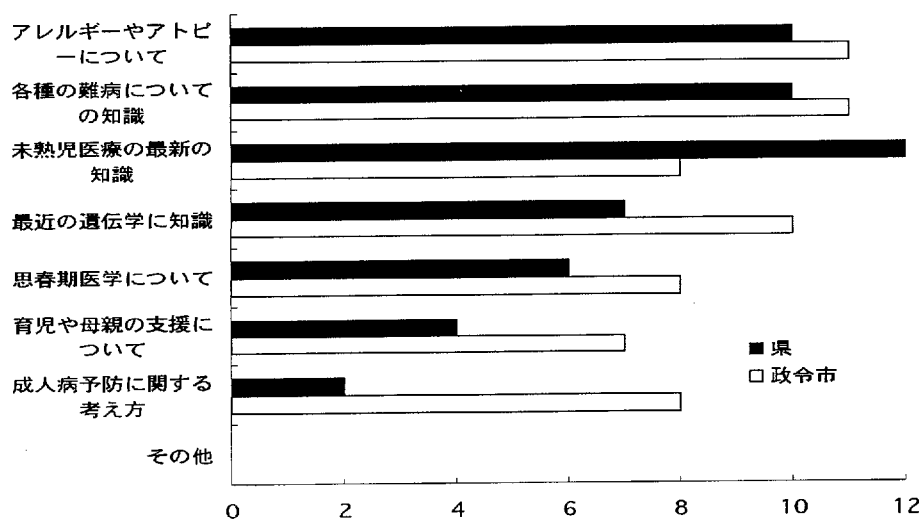


b.各種の難病をはじめとする最新の医療知識に関する地域向け研修、教育について

回答のあった23施設はすべて実施を望むものであった。

実際に研修、教育を実施するとして期待される項目については図2に示されるような結果であった。ア

図 2 教育、研修にはどのような項目を希望しますか



レルギーやアトピーに関してや難病についてがもっとも多く、ついで未熟児医療の最新の知識、未熟児を持つ親も気持ちの理解に関してと医療的な項目が続いた。少し減って遺伝学知識、成人病予防、思春期医学、育児や母

親支援などが続いたが、これらについては県域と政令市とで違いが見られた。

c.刊行物の発行（図3）

小児病院はしばしば学術的な医学誌を発行しているがこうしたものと別に地域の保健活動に実際的に有効な刊行物の有用性についてたずねた。必要ないとの回答は1件だけで最新のトピック的なことを簡略に、あふれる情報を整理、選択してとの希望が寄せられた。

こうした情報は医学雑誌や保健雑誌に特集を組まれたりすることはあるものの、地域で保健活動をする現場にあって必ずしも入手、利用しやすいものではない。最新情報など考え方の流動的なもの、解釈にまだ見解が分かれるものなどが現実には少なくない。相談の場にあって、実際の活動をする地域の中核となる病院から発信されたものであれば、活動の基盤として適切で心強いものとなるだろう。

このほか自由記載欄にはより具体的に未熟児、難病、福祉制度についての情報が多く求められていた。

d.地域情報室について

疾病や障害の患児の治療や療育についてばかりでなく、保健所では様々の健康相談や問い合わせを受ける。また各種の指導を担うのも保健所の業務となっているが、そのすべてに必ずしも確信のある基盤を持ち得ているとはいえない。そこでこうした活動の支えとなるような、地域からの相談に応じる機関の一

つとして小児病院は期待されるだろうか。小児病院内に気軽に各種の問い合わせができる地域情報室のような部署の必要性について問い合わせたところ、1件を除き23から必要と回答があった（図4）。

ではそうした部署があった場合にどのような問い合わせが期待されるだろうか。図5に示されるように最新の医療保健知識とともに医療機関情報が求められていた点が興味深かった。地域でどの医療機関がどのような検査、治療の専門機能を持っているのか、地域医療機関にどこまでなにを依頼できるのかを掌握した上で相談に答えてゆきたいのが地域の現場であろう。このほか病院内で開かれる患児や家族向けの教室やグループ情報をオープンにしてほしい、よりシステム化した対応体制をなどの意見がみられた。

図 3 保健医療福祉に関する刊行物の発行

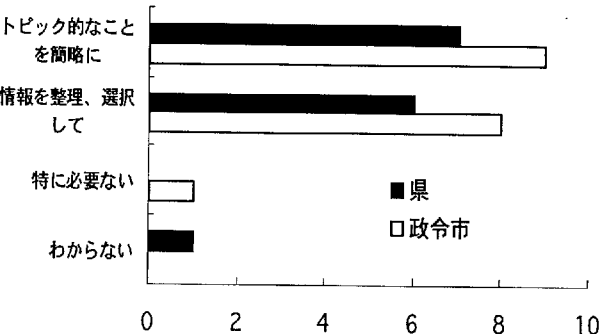
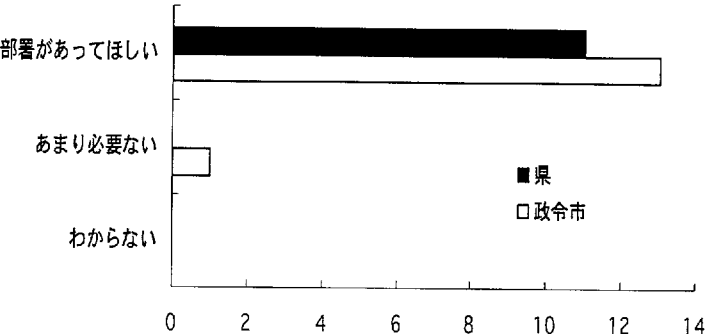


図 4 地域から各種の問い合わせができる部署の必要性



e.資料室としての役割（図6）

保健所では病院と異なり専門知識を得るための書籍や医学雑誌類は十分な整備がされていない。日常使用頻度は低い一方で必要時資料の入手に苦慮することが多い。そこで保健所で所有していない図書、雑誌、ビデオなどの各種の資料、教材を小児病院で保有、保管し、必要に応じ保健所に貸し出すサービスについてたずねた。是非あった方がよいと回答したものは全体の4分の3で、4分の1はあればあった方がよいとのことであった。ファクシミリや最近の通信機器等多様な選択が可能となりつつある中で、利用の形態についてやや質問に明確さが欠けていたことも消極的な回答につながったかもしれない。

f.地域での講演活動への参加（図7）

地域では保健や医療面で各種の教室が開かれ講演が行われる。こうしたときの講師の選択には苦勞させられることも多い。小児病院は県内の子どもを持つ親にとって信頼の篤い病院であり、そこから示される方針は保健や医療についての一つの判断の基準ともなりうる。こうした活動への参加に対する期待についてたずねた。大部分が積極的な参加を求めていたが、特に必要ないとの回答が一つみられた。これは小児病院はより広範な地域を対象にするだけでよいとするものであった。

g.その他求められる地域支援

地域での訪問看護ステーションの教育に携わってほしい、地域保健計画の策定にかかわって欲しい、

医師会との調整にかかわって欲しいなどがあった。

さらに自由な記載では20を超える意見が上げられたが集約すると表1のようにまとめられた。

図 5 地域情報室へはどんな問い合わせを希望しますか

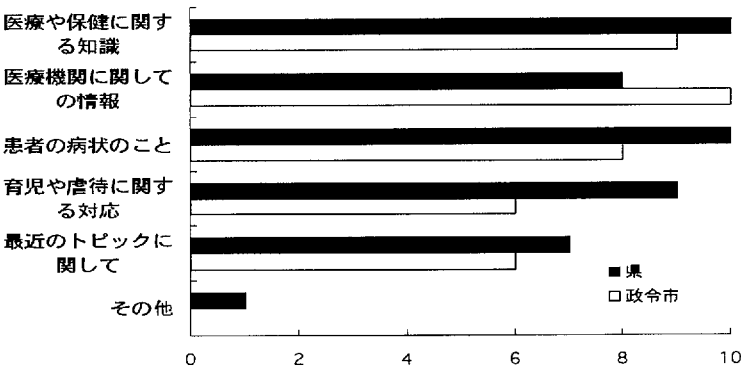


図 6 小児病院での資料の保有と貸し出し

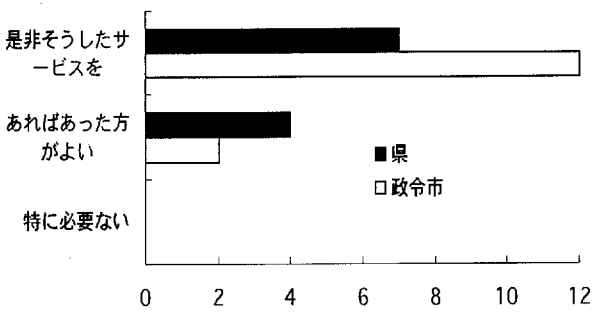


図 7 講演等への参加

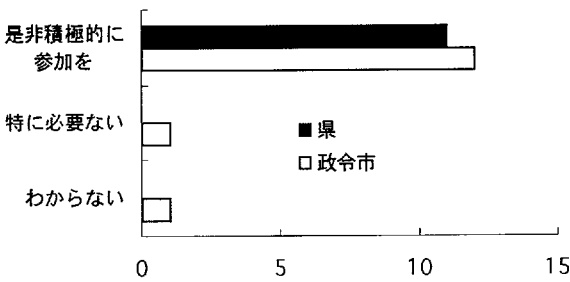


表 1 その他の意見

- * 訪問診療、巡回診療などの担当を
- * 関係機関とのネットワークづくりに協力を
- * 市町村の保健活動のスーパーバイザー役を

(2) 訪問看護ステーションへのアンケートから

訪問看護ステーションについては小児の訪問看護への取り組みの実情と小児病院への期待についてたずねた。

a. 小児の訪問看護への取り組み

図 8 に示されるように回答のあった31の中で13施設42%がすでに小児への訪問看護を実施していた。

訪問看護の依頼先は図 9 の様で小児病院 8、大学病院 6、その他が 5と多岐にわたった。

訪問看護されている症例は29例で診断名は記載によると表 2 の様であった。

表 2 訪問看護例の診断名

脳性麻痺	10
脳腫瘍	3
低酸素性脳症	2
慢性腎不全	2
筋ジストロフィー	2
クルーゾン病	1
その他	9

在宅医療については具体的な記載を求めなかったが記載されたものだけでも人工呼吸 1、持続陽圧呼吸1、気管切開 2、腹膜灌流 1などが行われていた。

b. 小児病院での教育、研修

以下保健所に行った様に小児病院の地域支援について質問した。

難病等への教育、研修については36中31が実施を希望していた（図10）。

教育、研修の項目としては障害児のリハやケアについてが 33 と一番でついで各種の難病 30、在宅医療についてが24 であった（図 11）。実際の在宅医療の技術的な面だけでなく子どものケアにに欠かせ

図 8 小児の訪問看護への取り組みは

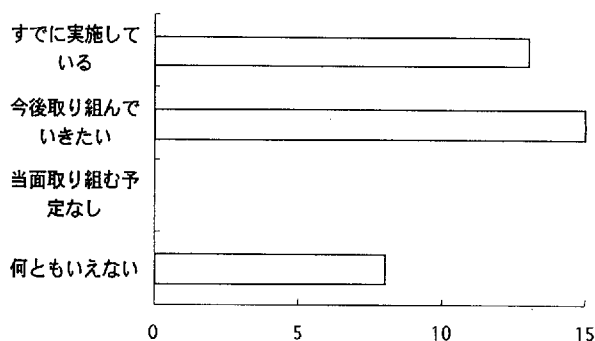


図 9 どこからの依頼ですか

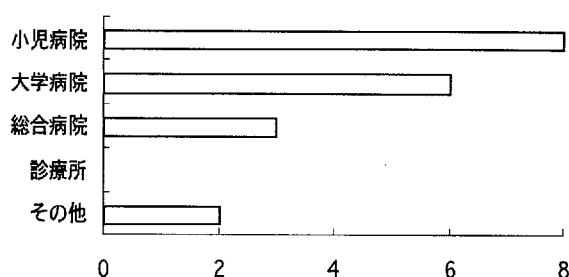


図 10 教育、研修について

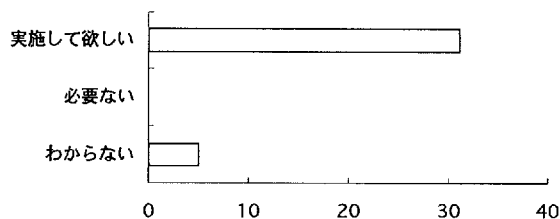
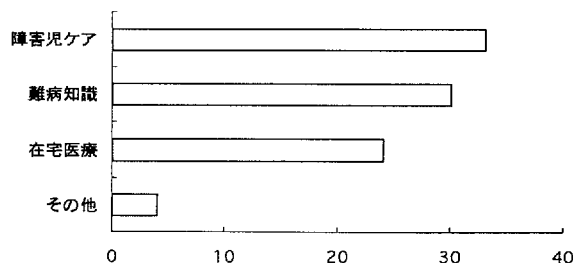


図 11 どのような教育、研修を希望しますか



ない療育面や医療的な知識を学ぼうとしている姿勢が伺える。

c. 保健、医療、福祉に関する刊行物（図 12）

学術的なものでない刊行物については情報の整理、選択をして伝えて欲しいが 23 と多かった。

d. 各種の問い合わせに対応する地域情報室

訪問看護ステーションにとって小児病院はまだ接点の少ない施設であろう。気軽にどんなことも問い合わせができる部署を求める声は 36 施設中 32 に上った（図13）。

問い合わせしたい項目は実際の患者の看護を担当しているだけに患者に関する治療方針、病状に関することが多く、医療保健に関する知識 28 とならんだ（図 14）。

e. その他

地域の看護活動における小児病院の支援については病院と診療所の間の橋渡しや、病院間連携づくりへの参加を求める声が多かった。このほかには患児と家族を支援する上で学校との調整役にぜひかわって欲しい、もっと療育や福祉関係の知識が欲しいなどであった。

4. 考察

地域保健法の改正にともない保健所には地域保健の推進役としてますます機能強化が求められている。対人的には未熟児訪問指導の強化や長期療養児支援であり、対物的には調査研究や地域コーディネート機能などがあげられる。

今回の調査から、保健所はその役割を担うため小児病院に多大な期待を寄せていることが示された。それをまとめると以下になる。

- (1) 保健所や訪問看護ステーションの教育、研修の担当
- (2) 医学的に不足する専門的知識、資料の情報源として
- (3) 地域からの保健、医療の相談役として
- (4) 地域の医療機関等との調整役として

こうしたことから小児病院には、今後保健所の機

図 12 刊行物の内容は

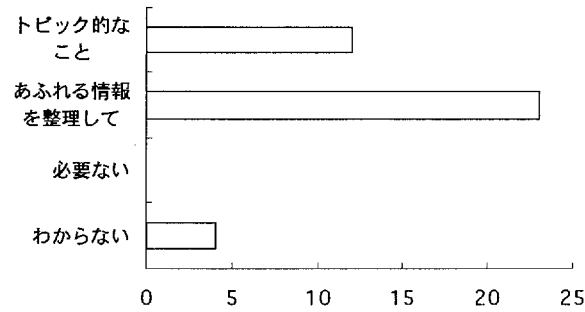


図 13 気軽に相談できる地域情報室は

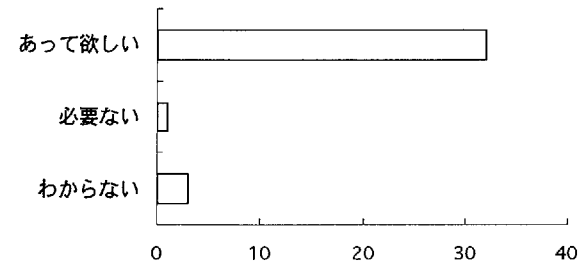
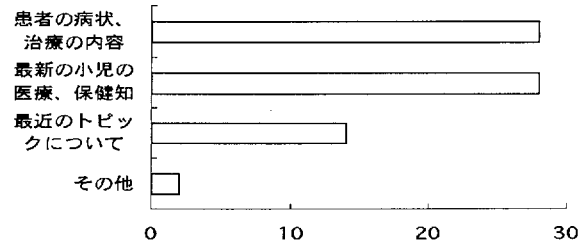


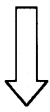
図 14 地域情報室にはどんな問い合わせを希望しますか



能強化を図る上での推進役として、情報の拠点、活動の適切なスーパーバイザーとしての役割が期待されているといえる。

訪問看護ステーションではすでに県内で小児の訪問看護が 29 例実施されていることがわかった。ここからも積極的な教育、研修の担当と地域の医療機関との連携づくりへの関与が求められた。さらに学校との調整、福祉に関する知識の提供が上げられていた。

以上、小児病院の地域保健に果たす役割について保健所と訪問看護ステーションから示された。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:地域から小児病院に期待される支援について知るために神奈川県内の保健所と訪問看護ステーションにアンケート調査を行った。その結果、保健所が地域で保健、医療活動を行う上で小児病院の役割として、教育、研修に始まり、情報の発信の場として、各種の資料の供給源として、様々の相談の頭脳として、さらに地域での保健、医療のシステムづくりの核として大きな期待が寄せられていることが示された。また訪問看護ステーションからは小児の訪問看護を進める上で保健所から寄せられたと同様の期待と同時に、在宅医療を進めるための地域医療機関との連携や、学校教育機関への橋渡しへの関与が期待されていた。保健所が専門的機能強化を果たし地域の保健、医療、福祉の統合と推進を図るため、また在宅医療が進み慢性疾患児や長期療養児の地域でのケアを保健所や訪問看護ステーションが有機的に連携して進めるため、小児病院の地域支援はますます重要性が増すものと思われる。